

平成 15 年度第 1 回 OR 企業フォーラム報告

●テーマ：「エネルギー競争と OR」

講師 東京ガス株式会社 常務執行役員 前田 忠昭氏

11 月 25 日(火) 学士会館 会議室

さる 11 月 25 日(火)に、学士会館(神田)において平成 15 年度第 1 回 OR 企業フォーラムが開催された。参加者は大学・企業合わせて約 40 名に上り、ゲストスピーカーとしてお迎えした東京ガス(株)の前田常務執行役員による「エネルギー競争と OR」と題した講演の後、活発な質疑応答が展開された。

まず、梅沢コーディネーターから OR 企業フォーラムの歴史的経緯についての説明が行われ、続いて司会の中野 OR 学会副会長から前田常務執行役員の略歴等のご紹介の後、講演が始まった。

講演は、まずエネルギー事業の最近の動きとして、日本ではお客様がガス・電気の購入を自由に選択出来ないという規制が徐々に緩和されビジネス環境が変化しつつあること、一方海外では既に完全に自由化された国が存在しており、その国ではビジネス環境が大きく変化したことが英国の事例を参考に述べられた。例えば、日本でも既にガス・電気業界の相互参入が始まっているが、過去に英国でも同様のケースが発生し、その際には海外からの新規参入者を巻き込んだ熾烈な価格競争が起こり、結果として M & A が頻繁に行われたことなど、エネルギー業界の昨今の話題を非常にわかりやすく説明された。

次に、ガス業界における技術開発の動向に関してお話があった。特に燃料電池に関して取り上げ、歴史的経緯からその種類、自動車をはじめとした用途、東京ガスとして住居に発電と給湯が出来る据置型燃料電池の販売を来年度に行うこと、燃料電池を作動させるためには水素が必要であるが、そのための水素供給ビジネスが既に展開されつつあることなど、非常に興味深いものであった。

続いて、企業における OR という視点で、社内事例としてガス料金の支払方法に関する顧客嗜好性の分析、東京電力と天候デリバティブ取引を行った際の分析等に関してお話があった。その中で興味深かったのは、前田常務執行役員のコメントであり、最近の技術開発に携わる研究者は専門に関係なくビジネスに興味を持



っており、パイプラインの入替工事や携帯電話を使用した検針の自動化で、従来はハード機器の開発のみ行っていた技術者が業務自体の変革にも携わるようになり、その中で OR 手法を使うケースがあるという点であった。

最後に、「OR は役に立っているか」、「OR 屋さんにはなぜ出世しないのか」という二点の問題提起を行い、前田常務執行役員の意見として、OR 的アプローチで問題解決を行っている事例は数多く存在するため OR は非常に役に立っていると言えるが、その際に必要な組織は課題を自ら発見し解決策を見いだす組織である。よって、方法論に特化した旧来型の企業内 OR 組織は、自ら課題を発見し様々な部署に提案する組織に変化しなければ破綻していく一方になるだろうと述べられた。

講演は 1 時間半ほどで終了し、その後参加者から「OR 屋に権力がない場合、どのように発見した課題を実施することに関われるのか」といった質問もあり、前田執行役員は「企業内に課題認識を持つ人は経営者以外にも多数存在し、その人たちが一緒に課題を検討しようと思わせるような OR 組織を作ればよい」と回答された。質疑応答は 30 分程度で終了し、その後ビールや軽食を伴った懇談会に移った。

最後になったが、本講演は企業関係者のみならず、就職後も OR に携わりたいという学生にも聞かせたいと思えるほど有意義なフォーラムであった。

(文責・研究普及委員 塩野直志)